

こころのはな



道徳の時間の様子

2年生「ぎおんまつり」 ～地域のぎょうじ～

千年前から続く「ぎおんまつり」のほこに乗るために、一ヶ月前からかねの練習をする『ぼく』。たくさんしかられて「やめてしまいたい」と思ったが、お父さんに「お父さんも、よくしかられて練習したものだ。みんな、そうやって、千年も続くぎおんまつりを守ってきているんだよ」と励まされ、もう一度がんばろうと思った。ぎおんまつりの当日、大勢の観客からあがる歓声や拍手を聞き、ほこに乗ってかねをたたきながら、練習して良かったと『ぼく』は思った。



授業のはじめに、お祭りのイメージについて質問しました。「人がたくさんいてにぎやかだった。」「出店があってワクワクしたよ。」「とっても楽しい場所だよ。」など、お祭りについて色々な話が出てきました。

その後、「ぎおんまつり」のお話を読んで、お祭りに参加する人の思いについて考えました。練習については、『ぼく』のように途中でやめたいくなるという意見も出ました。一方で、「やめてしまうと、おまつりを楽しみにしている人が悲しむかもしれない」という意見も出ました。練習を続け、「本番で、ほこの上で鐘をたたきながら『ぼく』はどんなふうに思っているのでしょうか」という問いに対して、それぞれに自分の考えを書くことができました。



子どもたちから出た意見

- 千年も続いているお祭りだから、まもっていききたい。
- みんなが楽しめるようがんばりたい。
- れんしゅうをがんばってよかったな。
- ぜったいにせいこうさせよう！
- 楽しみにしているお客さんのためにもがんばろう。

授業の終わりでは、自分たちの地域にあるお祭りや行事についての思いを聞いてみました。どの子も「お祭りがなくなると悲しいから続けてほしい。」「なくならないでほしい。」「みんなが楽しめるお祭りになってほしい。」という前向きな思いを発表していました。これからも、自分の住む地域の良いところをどんどん見つけ、その思いを大切にしていってほしいです。

